別添

平成29年度実践的安全教育総合支援事業成果報告書

教育委員会名：遠野市教育委員会

Ⅰ　事業の概要（地域の実情含む）

遠野市は、東日本大震災の際に、沿岸と内陸を結ぶ交通と交流の要所として、被災地後方支援を積極的に行うなど、市としての防災意識も高く、市で作成している防災マップは、地図だけでなく災害対策についての様々な状況が記載されている。

土淵小学校区では、平成28年、台風10号の通過により、学校付近の小烏瀬川が氾濫した。当日は、台風の接近に伴い、１日臨時休校措置を取っていたが、児童の中には避難所で夜を過ごしたものもいた。幸い、学校には大きな被害がなかったが、想定していなかった事態が起きたことに学校も地域も衝撃を受けた。このことをきっかけに、改めて防災マニュアルや避難訓練等をより幅広い事態に備えたものにしていくことの必要性を感じ、「自然災害等に備えた地域における児童及び保護者の防災意識をより高めること」、「自分で考え、判断し、主体的に行動する態度を育成する必要性があること」から、本事業を活用し、総合避難訓練の理論を学びながら実践的な避難訓練のあり方を考えるとともに、学習会や講演会を実施することを通して防災意識を高める取組を具体化したいと考えた。

遠野中学校区では、平成28年の台風10号において大きな災害は見られなかったものの、市の防災マップでは、洪水災害エリア、急傾斜危険エリア、土石流危険渓流が想定されている。また、遠野中は、体育館及び校庭が災害時の避難所やドクターヘリ離着陸地点に指定されている。このことから、近年の予測できない自然災害への備えとして、日頃からの防災意識を高める必要性と、避難所運営時の生徒の主体的な関わりの必要性を感じており、本事業を通して、市消防本部や市防災部局等との連携を図り、防災学習会や避難所運営ゲーム（HUG）などに取組み、地域防災についての意識を高めるとともに、災害に対して主体的に行動しようとする態度の育成を目指すこととした。

Ⅱ　取組の概要

1　遠野市立土淵小学校

（1）　防災講演会・減災授業の実施

ア　防災講演会①（7月14日）

消防署員を講師に、全校児童で昨年度の台風被害や地域の水害について学んだ。

イ　減災授業（10月16日）

５年生が総合的な学習の時間に東北大学講師による出前授業を受け、減災・防災について理解を深めた。

ウ　防災講演会②（11月29日）

学校防災アドバイザー派遣事業を活用し、盛岡地方気象台職員を講師に５・６年生が、水害や土砂災害のメカニズムについて学習を行った。

（2）　防災授業、総合避難訓練、親子防災教室の実施（9月12日　授業参観日）

授業参観日、全児童を対象に復興副読本等を活用し、防災に関わる授業を行った。

授業参観後、消防署員の指導のもとに、児童と保護者、教職員による水害を想定した総合避難訓を実施した。一次避難場所の校庭から二次避難場所の地区センター移動した後、消防署員を講師として、親子防災教室を開催した。講師から、水害時の各地区避難所や非常持ち出し品について親子で学んだ。

（3）防災（水害・土砂災害）マップづくり

３年生が総合的な学習の時間に学区内を踏査したり、市のハザードマップを活用したりして防災マップを作成した。特にも台風10号で被害にあったり、避難所に行ったりした児童の体験を生かしたマップづくりに取り組んだ。12月には、防災学習で学んだ学習の成果を全校児童に発表した。

２　遠野市立遠野中学校

（１）避難行動訓練

ア　避難訓練

全校生徒対象、５月実施。

イ　シェイクアウト行動訓練

全校生徒対象、７月と１１月の２回実施。

訓練の後に教科担任による５分程度の講話を行った。（訓練の評価、災害時の行動で大事なこと、体験談等）

（２）防災意識アンケート

ア　第１回アンケート

全校生徒対象、７月実施。

イ　第２回アンケート

全校生徒対象、１２月実施。（第１回と同項目）

（３）避難所運営ゲーム（ＨＵＧ）

ア　教職員ＨＵＧ研修

３学年生徒の体験に先行して教職員対象に実施。ＨＵＧは、判断の難しさを実感できる点で、避難所運営訓練の前に実施することが有効であると確認できた。

イ　３学年ＨＵＧ体験

避難所運営を模擬体験した。時間が経過するにつれ、判断に迷う様子であった。振り返りでは反省点を明らかにしながら、避難所運営訓練への意欲を示す生徒が多かった。

（４）２学年市外研修

陸前高田市を訪問。防災研修を行い、現地ガイドから発災時に取るべき行動を学んだ。

（５）避難所運営訓練

１０月、体育館を会場に避難所運営訓練を実施した。３学年が運営役を担い、避難者役は１学年と保護者が担当した。また、実際の避難所を再現するため、受付業務（市の公式な名簿様式を用いて実施）や物資搬入、炊き出し、仮設トイレ設置、投光器の操作、電話による消防本部との情報共有等を行った。

（６）１学年フィールドワーク（危険箇所調査）

地域の危険箇所を家族と一緒に確認する取組をし、交流会で危険箇所を記した地図や写真等を用いて、仲間と安全確保の方法を確認し合った。

（７）防災学習全校報告会

１２月、今年度の防災学習を全校で確認し合う報告会を実施した。

１学年はフィールドワークの結果と避難所運営訓練で避難者役の視点で気づいたことを発表した。２学年は陸前高田市で学んだ防災対策と発災時の行動について発表した。３学年はＨＵＧと避難所運営訓練で気づいたことや中学生が地域に果たす役割について発表した。

Ⅲ　取組の成果と課題

１　成果

（１）取組を通じて、「ハザードマップ」や「家族で確認した避難所」を知っている児童が増加した。（土淵小）

（２）保護者と一緒に避難訓練をしたり、防災の話を聞いたりして、取組みを通じて共通の話題を共有したことが、家庭で防災について話し合う機会につながった。（土淵小）

（３）「安全を守るために大切なこと」について、「早めの行動」「率先避難者になり、周りに声をかける」「事前の備え」「情報を聞く」など、取組から学習したことを生かし、主体的に判断し、行動しようとする児童が多くなった。（土淵小）

（４）防災意識アンケートによって、防災意識の向上が明らかになった。（遠野中）

（５）「守る立場」として自分たちがどんな役割を担えるか、どんな心がけや準備が必要か、生徒にとって考える機会となった。（遠野中）

（６）状況を臨機応変に判断し、主体的に行動しようとする態度が多くの生徒の姿にあらわれていた。（遠野中）

（７）地域防災において中学生は大人の想定以上に多

様な役割を担える存在であることがわかった。(遠野中)

2　課題

（1）児童生徒が学年に応じて身に付けなければならない防災力の明確化と訓練内容の吟味などカリキュラムの工夫を行い、効果的な防災学習を目指す必要がある。(遠野中)

（2）取組み前より改善はしているが、児童生徒の防災意識の高まりが家族と共有できていない状況が依然として見られる。継続して、全家庭で防災について話し合うよう働きかけていく必要がある。

（3）学校・地域・行政（消防）間の情報交換や災害時の協力体制をさらに確立していく。学校での避難訓練にも積極的に係っていただけるよう今後も働きかけをしていく。

（4）学校の訓練に地域の関係機関等が参加する取組だけではなく、地域で実施する防災取組等へ児童生徒がより積極的に参加していくことも大切であると実感した。今後進めていきたい。